

朗読・群読の教育的効果～意欲の向上～

朗読・群読に対する意欲の向上

《生徒の自己評価カードから》

- 自分の朗読プランを立てて読めて、グループでやってきて、みんながどのように工夫しているのかが見られてよかった。
- 班の人の発表や代表の発表を聞いて、個人ごとに特徴が出ていておもしろかった。
- 古典の朗読は去年もやったけれど、今年はまた一段とうまくいったと思う。いろいろな人の発表を聞いて、「こういう読み方もあるのか」と思った。
- 隣の人とペアになってやって、まちがいや読み方など教え合って、けっこうよくできたと思う。みんなでやったときもペースにのってできてよかったと思う。けっこう「古典」を好きになりそうだ。
- 歴史的仮名遣いがよくわかり、すらすら読めるようになった。これをきっかけに古典を読みたい。
- 一応読めるようになったが、まだ少しつまづいているので、完全に読めるように家でも読もうと思う。読めるようになったら少しおもしろくなってきた。
- 「枕草子」の古文の意味がよくわかった。そして、古典に対しての自分の気持ちが変わったと思う。
- 群読のグループ台本では、きちんと話し合ってつくることができた。でも、本番では反省する点がいくつかあったので、今後、この反省を生かしたい。とても楽しく学習することができた。
- 群読をすると「枕草子」の文もわかりやすい。みんなで話し合えて楽しい。もう少し声を出して発表したかった。
- 語り手や与一などの役をやっている人の読み方が参考になった。またやってみたいと思う。
- みんなで群読をして、何だか「扇の的」の雰囲気がつかめた気がした。最後の方では、以前テープで聞いた大人の人たちほど上手ではないけれど、うまくできたのでよかった。
- 自分の役になりきり、今、群読をしたことが本物みたいでおもしろかった。
- 一人で読むと、あまり雰囲気がつかめないが、大勢で読むと、戦場の雰囲気がわかるような気がする。
- 自分で群読台本をつくって読んでみて、自分の表現の仕方とみんなの表現の仕方が、それぞれ違っており勉強になった。

《教師の観察結果から》

- 朗読、グループ群読、学級群読と、人数が増えていくにつれて、迫力が増してくる。あたかも、それに比例するように生徒の意欲も向上してきたように感じる。
- 古典を苦手としている生徒でも、音読練習を工夫したり、歴史的仮名遣いが読めるようになったりすると、俄然学習意欲が増し、楽しく、おもしろくなってくるようである。